

2016年3月20日(日)朝10:10～  
3月第3棕櫚の共同主日礼拝式説教

受難節・四旬節第6、交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：ろばの子の背に乗る柔和な主

聖書：マタイ 21章1～11節

＜口語訳＞

新約聖書33頁

マタイ 21章1～11節

＜新共同訳＞

新約聖書39～40頁

マタイ 21章1～11節

＜新改訳第3版＞

新約聖書41～42頁

マタイ 21章1～11節＜塚本訳＞

新約聖書130～131頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場**で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ書21章1～11節**で、**イエス様の最後**の**エルサレム入城**を**使徒マタイ**は、**旧約の救い主(メシヤ)来臨預言成就**の視点で、記録しています。

⇒しかも、**使徒マタイ**は、自分たち、**御子イエス・キリスト様の弟子たち**、**群衆**や**エルサレムの人々**も、**救い主(メシヤ)のエルサレム入城の目的**を理解できていなかったという立ち位置で記録しているのです。

⇒私たちは、追体験的に**マタイ書**を読み、**御子イエス・キリスト様の真実な思い**を知る立場の者ですので、その**イエス様の思い**を真摯に受け止めて、**神信仰**に生かされたいと願います。

⇒**救い主(メシヤ)**、**御子イエス・キリスト**は、向こうの村から「**ろばの子**」を連れて来るように命じ、**派遣された2人の弟子たち**は、**ろばの子**を連れて来ましたが、**この従順が鍵**です。

本論；

◇本日、**マタイ書21章1～11節**から主の**使信**に**思い・心**をとめます。

◆**マタイ21章1～8節**；使徒**マタイ**は、旧約の**預言者ゼカリヤの預言成就**として**救い主(メシヤ)御子イエス・キリスト様**のエルサレム**入城**を記録しています。

◇1～11節；塚本訳◆都入り

「1 一同がエルサレムに近づき、オリーブ山の中腹のベテパゲに来ると、その時イエスはこう言って二人の弟子を使いをにやられた、

2 「あの向かいの村まで行ってきなさい。(村に入ると)すぐ、子をつれた驢馬が見つからないのが見える。解いてわたしのところに引いてきてもらいたい。

3 もしなんとか言う者があつたら、『主がお入用です』と言えばよろしい。すぐ渡してくれるから。」

4 これは、**預言者(ゼカリヤ)**をもって言われた**言葉が成就**するためにおこつたのである。

---

- 5 『シオンの娘に告げよ、』『見よ、心のやさしいあなたの王が、来られる、驢馬にのって、驢馬の子の子驢馬にのって』と。
  - 6 弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにして、
  - 7 驢馬と子驢馬とを引いてきた。そして自分たちの着物をその上にひろげると、イエスはそれに乗られた。
  - 8 おびただしい群衆がその着物を道に敷いた。木の枝を切ってきて道に敷く者もあった」と、使徒マタイは語っています。
- ◇ 1～8節；「あの向かいの村まで行ってきなさい。(村に入ると)すぐ、子をつれた驢馬が見つないであるのが見える。解いてわたしのところに引いてきてもらいたい」(2)、「『主がお入用です』と言えばよろしい。すぐ渡してくれるから」(3)、「『シオンの娘に告げよ、』『見よ、心のやさしいあなたの王が、来られる、驢馬にのって、驢馬の子の子驢馬にのって』」(5)と、「預言者(ゼカリヤ)をもって言われた言葉が成就するためにおこった」と、使徒マタイは語り、「驢馬と子驢馬とを引いて

きた。そして自分たちの着物をその上にひろげると、イエスはそれに乗られた」、「おびたらしい群衆がその着物を道に敷いた。木の枝を切ってきて道に敷く者もあった」と、弟子たちや群衆の救い主(メシヤ)としての御子イエス・キリスト様を認識する姿勢は、明確に記録しています。

⇒「**驢馬の子**」に御子イエス・キリスト様は乗りエルサレムに入城され、救い主(メシヤ)として迎えられました。

⇒ただ、弟子たちは、御子イエス・キリスト様が、「**驢馬と子驢馬**」のどちらに乗られるのかを理解できず、両方の「**驢馬**」に自分たちの着物をひろげました。

⇒群衆も、Ⅱ列王記9章13節に記録されています王を迎える「**着物を道に敷き**」、**棕櫚の木**の枝を切ってきて道に敷くことができましたが、**マタイ書21章10～11節**の通り、周辺の人々のことばに反応して、**救い主(メシヤ)**御子イエス・キリスト様に対する神信仰の**姿勢**を一変させるのです。

⇒そこには、**悲しみの主のみ**がおられます。

- ⇒ヨハネ福音書(12章)が記録しますように、**使徒マタイ**は、この記録を残す時は、無知だったことを悔い改め、「**心のやさしいあなた**の王が、来られる」との**ゼカリヤ書9章9節**の**救い主(メシヤ)来臨預言の成就**を宣言しているのです。
- ⇒**EY師**は、**御子イエス・キリスト様**に**聴従する「しもべの姿勢」**を**明確にして**、ご自分を「**ちいろば**」と呼び、**今治教会**を辞して、主にみことばに聴き従い、祈る「**アシュラム**」に専念するため、**瀬戸内海**を船で渡ることを「**向こう岸へ渡る**」**神信仰の 服従行為**と理解して、**主のご奉仕**に邁進されました。
- ⇒「**心のやさしい・柔和**πραῦς」は、**SY師**が、直訳すると、「**悩まされた、苦しめられた**」で、**OA師**も、**ゼカリヤ書9章9節**の「**柔和**יָבֵן」を「**貧しい、苦しむ、惨めな**」の意味を本来もつと語っておられます。
- ⇒**SY師**の説明によると、「**謙卑と受難**」の**救い主(メシヤ)** **御子イエス・キリスト様**を**使徒マタイ**は、伝えているのです。

◆マタイ21章1～8節；使徒マタイは、群衆が、すぐ心変わりして救い主(メシヤ)御子イエス・キリスト様を疑う姿も記録しています。

◇1～11節；塚本訳◆都入り

「9 群衆は、イエスの前を行く者もあとについて行く者も、叫んで言った。——ダビデの子に『ホサナ！主の御名にて来られる方に祝福あれ。』いと高き所に『ホサナ！』

10 やがてエルサレムに着かれると、都中が「この人はだれだろう」と言って騒ぎたった。

11 「この人はガリラヤのナザレの預言者イエスだ」と群衆は言った」と、使徒マタイは語っています。

◇9～11節；「群衆は、イエスの前を行く者もあとについて行く者も、叫んで言った。——ダビデの子に『ホサナ！主の御名にて来られる方に祝福あれ。』いと高き所に『ホサナ！』」、併し、御子イエス・キリスト様がエルサレムに着かれると、「都中が『この人はだれだろう』と言って騒ぎたった」、「『この人はガリラヤのナザレの預言者イエスだ』と群衆は言って」、群衆は、豹変したのです。

- ⇒ **群衆の豹変**はつづき、**救い主(メシヤ)御子イエス・キリスト様**が、裁判にかけられると、**群衆**は、「十字架につけろ」との叫びを出す人々に変わるのです。
- ⇒ **弟子たち**でさえ、**御子イエス・キリスト様**を見捨てて、去って行ったのです。
- ⇒ここに、「**救い主(メシヤ)御子イエス・キリスト様の謙卑と受難**」を**使徒マタイ**が描いていると、**SY師**が仰せの真意が隠されているのです。
- ⇒ **群衆**や**弟子たち**だけでなく、**神の教会**に繋がる私たちも、「**驢馬の子**」の背に乗る主の「**謙卑と受難**」の姿を見失う者なのです。
- ⇒そして、**御子イエス・キリスト様**の命令に従い、向こうの村に行って、「**驢馬と子驢馬**」を連れ帰ってくるところまでは、服従し、**群衆**も、詩篇118篇の都上りの交唱歌をもって、「**ホサナ**」＝「**どうぞわれらをお救いください**」と叫びつつも、最後の最後で、従い通せなかったのです。
- ⇒**イザヤ書53章2、3節**の「**謙卑と受難**」の**見るべき面影**を常に思い出して、**身を低くしたい**。



## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ書21章1～11節**で、**イエス様**の最後の**エルサレム入城**を**使徒マタイ**は、旧約の**救い主(メシヤ)**来臨預言成就の視点で、記録しています。
- ⇒**救い主(メシヤ)**御子**イエス・キリスト様**は、徹底して、**父なる神**に**服従される**ために、「**驢馬の子**」の背に乗って、「**謙卑と受難**」の「**救い主(メシヤ)**」であることをパフォーマンスの形で宣言されました。
- ⇒**EY師**が、ご自分を「**ちいろば**」と告白し、徹底して、「**御子イエス・キリスト様のことば**」に聴き従われたように、「**主がお入り用です**」と仰せの「**驢馬の子**」、「**驢馬と子驢馬で**」、**救い主(メシヤ)** 御子**イエス・キリスト**をお乗せできるご奉仕を、**群衆**や**弟子たち**のように、**神なき生活**のことばに惑わされないで、全うしたいと願います。祝**パームサンデー**(Ⅱコリ2:8、9)